

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072700380		
法人名	社会福祉法人 周防学園		
事業所名	グループホーム ほうらい		
所在地 (電話番号)	福岡県豊前市大字今市135-1 (電話) 0979-83-1165		
評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月3日	評価確定日	平成21年9月11日

【情報提供票より】(平成21年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	(水光熱費)6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.1 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八屋第一診療所・大川病院・辛島内科・川木戸歯科・豊前眼科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほうらいは、豊前市役所に近く、交通の利便性の良い市街地に位置している。歴史ある社会福祉法人を母体としており、知的障害者援護授産施設や老人保健施設の運営等、福祉事業を多角的に展開しており、充実した連携体制がある。地域の活動や行事へ積極的に参加し、地域住民としての役割りを担いながら交流を育んでおり、近隣の方々から気軽に訪れるなど、自然な交流が行なわれている。毎日の食材の買い物や散歩、ドライブ等外出の機会を大切に支援し、心身の活性につながるよう取り組んでいる。十分な広さと高い天井を持つリビングには、天窓や回廊式となっている中庭から自然の光が差し込み、開放感あふれる空間となっており、管理者・職員は「のんびり、のびのび、ゆっくり」というモットーの実践に向けて、日々取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価については、12月の運営推進会議・家族会にて報告を行っている。改善項目であったアセスメントはセンター方式を取り入れ、現在も勉強中である。研修計画についても法人の年間研修計画、ホームの年間研修計画が作成されており、研修後の報告書や感想文も提出されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員に自己評価の用紙を配布して記載することにより、評価の意義を理解できるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期開催されており、家族の積極的な参加がある。外部評価・報酬改定・実習生の受け入れ・インフルエンザなど感染症対策等について、報告や話し合いが行なわれており、家族との活発な意見交換の機会ともなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関には意見箱を設置し、苦情相談窓口の案内を掲示している。家族会開催時には事前に苦情相談アンケートを配布し、食事・対応・環境などの各分野で意見を記入してもらっている。その内容については家族会で相談するなど、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	開設時より自治会に加入しており、地域の祇園や花火大会、保育園行事や道路愛護(草取り)等に参加している。隣近所の方々が日常的にホームに来訪し、スイカなどの差し入れをしてくれる関係がある。また近隣の高校の体験学習を受け入れており、毎年学生が実習に来訪する。地域との関係は堅苦しいものでなく、自然体で交流が行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「地域社会との連携、共生を目指して」「利用される皆様とご家族の視点に立って」「明るい家庭的雰囲気や納得ずくの介護を」という地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の理念を掲げている。またモットーとして「のんびり、のびのび、ゆっくり」をケア方針としている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を、廊下やリビング等各所に掲げており、見やすいように工夫している。申し送りの時などに理念を共有できるように、この言葉を確認するようにしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	開設時より自治会に加入しており、地域の祇園や花火大会、保育園行事や道路愛護(草取り)等に参加している。隣近所の方々が日常的にホームに来訪し、スイカなどの差し入れをしてくれる関係がある。また近隣の高校の体験学習を受け入れており、毎年学生が実習に来訪する。地域との関係は堅苦しいものでなく、自然体で交流が行なわれている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の評価結果は運営推進会議・家族会などで報告しており、課題となっていたアセスメントの見直しや研修計画については、改善に向けての取り組みが行なわれている。今年の自己評価にもスタッフ全員で取り組み、評価の機会を活かしてサービスの向上に努めている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期開催されており、家族の積極的な参加がある。外部評価・報酬改定・実習生の受け入れ・インフルエンザなど感染症対策等について報告や話し合いが行なわれており、家族との活発な意見交換の機会ともなっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	高齢福祉課や地域包括支援センターには、ホーム便りを届けている。市町村担当職員との連絡により、情報収集や共有に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	家族には入居時に、権利擁護に関する制度について説明が行なわれている。現在制度を活用している入居者はいないが資料を準備し、必要な場合に支援できるよう理解を深め、学ぶ機会の確保(研修計画有)に努めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪時や、2ヶ月に1回開催される運営推進会議の機会を利用して、生活状況などの報告を行なっている。職員の異動についても家族会での報告を行なっている。金銭管理についても帳簿を確認の上、サインをもらっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関には意見箱を設置し、苦情相談窓口の案内を掲示している。家族会開催時には事前に苦情相談アンケートを配布し、食事・対応・環境などの各分野で意見を記入してもらっている。その内容については家族会で相談するなど、運営に反映させている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の移動は最小限としているが、管理者・計画作成担当者などは異動が行なわれている。その際には1ヶ月程度後任者と重複勤務等を行い、馴染みの関係づくりを行ないながら、入居者のダメージとならないよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての募集・採用となるが、性別や年齢は判断基準には含まれていない。職員ヒアリングでは「働きやすい」という声があり、また管理者は職員の能力が発揮できるよう配慮に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権については10月の研修予定となっている。身体拘束やプライバシーについても年間研修計画の中に含まれている。モラロジー(道徳科学)などの人権啓発活動への参加や資料の参照が行なわれている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人全体の研修があり、またホームとしても年間研修計画が作成されている。運営面の研修(火災・事故等)、ケア研修(緊急時・感染症・移動方法・食事・排泄・疾患等)、接遇(お客様満足度研修・処遇記録研修等)など多様な内容で実施されており、感想文や報告書も提出されている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	職員等の人脈を通じて、グループホームとの交流の機会があり、相互訪問や情報交換が行われている。地域にはまだ協議会等の発足が無く、行政等の協力を得ながら今後のネットワーク作りや勉強会の開催等への、積極的な働きかけにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には自宅訪問を必ず行い、生活状況の把握に努めている。家族とともに見学してもらい、少しずつ信頼関係を築きながら段階的な支援を行なっている。入居時には家族が宿泊する場合もあり、柔軟に対応している。今後は昨年開設したデイサービスの活用も視野に入れながら、馴染みの関係づくりに柔軟に対応していきたいと考えている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	スーパーへの買い物や洗濯物たたみ、花壇の手入れなど、出来る方は一緒に行うようにしている。昔の唄を教わったり、花の手入れの仕方を教わったり、日々の暮らしの中で学ぶことも多く、「ありがとう」という感謝の言葉を伝えることを忘れないようにしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来ること・出来ないことシートを利用して、日常生活・役割活動などを細かに把握するように努めている。コミュニケーションが困難な場合は、表情や行動から少しでも理解できるよう努めている。センター方式によるアセスメントの活用に向けて、取り組み始めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見を大切に、職員の意見も反映しながら、わかりやすい介護計画が作成されている。また課題毎に記録が詳細になされており、毎月評価が行なわれている。詳細で丁寧な記録が確認できるが、重複している部分も多く、効率化による負担軽減も検討して下さい。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、ケア会議で職員全員による評価が行なわれ、介護計画を見直している。状態が変化した場合は、その都度見直しをおこなっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通所サービス・ショートステイ(空床時)を活用して、柔軟な支援を行っている。同法人の老人保健施設との協力体制により、福祉用具利用時にはOT・PTとの協力がある等、連携も充実している。通院介助も柔軟に対応している。災害時等の避難先としての利用や、介護の悩み事相談を遠慮なくしてほしいと、地域支援を申し出ている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者それぞれの主治医を大切にしている。受診は職員がおおむね通院介助している。緊急時対応してくれる病院もある</p>		

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に、重度化や終末期についての方針を説明し、同意を得ている。家族会でもこの方針について、繰り返し説明している。状況の変化があった場合には、本人の意向を大切にしながら、家族・主治医・職員等との話し合いを重ねている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	調査当月は、接遇について目標を掲げており、言葉かけなど特に注意をしている。書類は鍵付きの戸棚に収納している。入居者の生活歴などを把握する際にはプライバシーに配慮し、入居者の誇りを損ねないように留意している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	起床時間や入浴、食事の時間・場所など、その時の入居者の状況により対応しており、個々のペースを大切にしながら、無理強いとならないよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事については、法人の管理栄養士の献立を基本とし、毎月スタッフ会議で話し合いがされている。旬の野菜を取り入れたり、新鮮な魚をその日に配達してもらうなど、食材にもこだわっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴の準備を行い、希望や状況にあわせて柔軟に支援している。夜間入浴を希望する場合にも、管理者・主任により対応している。入浴を拒否する方には、様々な工夫により入浴を促していくが、決して無理強いとならないよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者一人ひとりの希望や得意分野、能力に応じて、役割りを持てる場面づくりに努めている。毎日の食材の買い物や調理準備、花壇の水遣りや季節の花を活けることなどを共に行なっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望や状況に合わせて、毎日の食材の買い物や散歩に、日常的に外出している。外出の機会をできるだけ多く持てるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は施錠を行っていない。地域住民の協力や隣接する同法人事業所との連携により、声かけや連絡をしてくれる関係がある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	豊前消防署の協力の下、年2回の昼夜を想定した避難訓練を行っている。地域の方々の参加もあり、協力体制が確立されている。また災害時の避難場所として、ホームや通所施設の利用を申し出ており、地域との相互協力体制が構築されている。法人としての災害時の連携体制もある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	母体老人保健施設の管理栄養士により、献立が作成されている。治療食や調理形態(ミキサー、刻み等)にも柔軟に対応している。身体状況に応じて医師と相談しながら栄養補助食品を利用している。体温表には食事量・水分量・排泄の有無などが記載されており、健康管理に活かしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ほうらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	天井も高く、十分な広さを持つリビングには、天窓や中庭からやわらかな自然光が差し込み、間仕切りもないため開放感がある。回廊式となっており、ソファやテーブルが各所に配置され、その日の気分により、日が当たる場所や静かな場所など、好きな場所を選ぶことができる。四季折々の花を飾り、また対面式のキッチンでは調理をしながら、見守りや会話がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には洗面台やベッド、クローゼットが備え付けられている。馴染みの家具や仏壇、使い慣れた物が持ち込まれており、それぞれの配置や飾りが個別に行なわれており、居心地の良さに配慮がなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			